

## 子どもたちの振り返り

今回の夏休み探究ツアーでの子どもたちの発見や探究心、アイデアが「持続可能な目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」を達成する大きな力になります。これからの社会を持続可能でよりよいものとするために自分たちに何ができるか、子どもたちに今回のツアーを振り返ってもらいました。

①これから解決策を考えていきたいと思った SDGs の目標を 17 項目の中から 1 つ 選んでみましょう。

	SDGsの目標	選択人数	選択理由
6	安全な水とトイレを世界中に	1人	・水を大切にしようと思ったから。
11	住み続けられるまちづくりを	2人	・自然と共存するまちを守りつづけることが大切だと分かったから。 ・みなかみ町の話聞いて自然と人間の共存が必要だと分かったから。
13	気候変動に具体的な対策を	2人	・気温の上昇が原因で、海の水位が上がってしまっている現状を知ったから。 ・環境の話聞いて、気候変動について詳しく知りたいと思ったから。
14	海の豊かさを守ろう	4人	・レイクラフティング体験で、湖や海が汚れていることを知ったから。 ・湖で実際にごみを拾ったから。
15	陸の豊かさも守ろう	20人	・植林や外来植物除去などを体験して、森林を守ることかどれだけ大変かを知ったから。 ・みなかみ町の自然を見て、取手にもきれいな自然を増やしたいと思ったから。 ・森林を守ることが未来の地球のためだと分かったから。

②今回のツアーの経験や知識をもとに、①で選んだ目標で取手市やみなかみ町の現状・課題とそれを解決するために実際に行われている取組を調べてみましょう。

SDGsの目標		取手市の現状や課題	みなかみ町の現状や課題
6	安全な水とトイレを世界中に	・使い捨てのプラスチック製品などがポイ捨てされている。→プラスチックはマイクロプラスチックとして海に流れてしまう。安全な水を守るために市や町で計画などを策定して住民に呼びかけている。	
11	住み続けられるまちづくりを	・ペットボトルやたばこ、ビニール袋などのごみが道ばたに落ちている。→取手駅前でごみ拾い活動をしている。ポイ捨て禁止条例を出している。	・人口が減少している。 →自然と触れ合うことができる場として、環境教育や体験活動など多様なアクティビティが用意されていて、都心部からの参加者も多い。
13	気候変動に具体的な対策を	・猛暑や暴風、大型台風などの異常気象によって、浸水などの災害が起こっている。→「取手市気候非常事態宣言」を表明し、危機感を市民と共有している。	・みなかみ町を流れる川の雪どけ水が少なくなり、ダム貯水量が減っている。 →節水を呼びかけている。みなかみ・水・「環境力」宣言を行い、自然環境を守り、活かし、広めるための取組をしている。
14	海の豊かさを守ろう	・ごみを分別せずに捨ててしまったり、ポイ捨てしてしまうことで、川や海にごみが流れていってしまっている。 →ごみ分別を徹底している。 ・川や湖が少し濁ってしまっているところがある。 →家からでた生活排水や食用油などをそのまま流さないように呼びかけている。	

15	陸の豊かさも守ろう	<p>・アライグマなどの外来種が出現している。→捕獲活動を行っている。</p> <p>・外来種によって、在来種の存在が脅かされている。→里山の保全活動、利根川や小貝川などの水辺環境の保護を行っていて、生きものとその生息地を守っている。</p>	<p>・小動物が木の芽を食べてしまうことで、木が増えず山崩れが多くなっている。→柵や罾を設置する。</p> <p>・オオハンゴンソウなどの外来種が在来種のすみを奪い自然が破壊されている。→定期的に除去作業を行っている。</p>
----	-----------	---	---

③今回の探究ツアーを通して、これからの社会を持続可能でよりよいものにするために自分たちにできること、これからやっていきたいと思ったことを考えてみましょう。

内容
<p><b>【6年生・安部 蓮稀さん】</b></p> <p>家の周りの雑草をぬいて庭をきれいにしたいです。取手市のごみの分別について、燃えるごみは赤のふくろに、燃えないごみは青のふくろに、資源ごみは緑のふくろに入れてちゃんと分別したいです。せっかく作ってくれたごはんや給食を残すと残飯になってしまうので、できるだけ全部食べてごみを出さないようにしたり、水のむだづかいをしない、歯をみがくときに水をとめる、お皿を洗うときに水を出しっぱなしにしない、どこかに出かけるときは電気を消す、エアコンの温度設定などに気をつけていきたいです。</p>
<p><b>【6年生・荒川 琴吹さん】</b></p> <p>私は、みなかみ町に着いた時、山がたくさんあったことにとてもおどろきました。1日目の植林体験をしたときは、木をどのように植えるかが勉強になりました。また、その後、木を植えるのは森林を守っていくためだとお話を聞いてわかりました。みなかみ町にまた行く機会があったら、もう一度植林体験をしてみたいです。そして、前に植えた木も見たいです。夜の熊うちりょう師の話はリアルでとてもおどろきました。最初は熊うちりょう師は、あまり必要ないのではないかと思いましたが、実際に話を聞くと必要だと思いました。2日目の外来植物除去作業では、外来植物の見分けも難しく、除去するのも大変でした。でも、自然のためにやっていると思うとがんばることができました。その後の森の香りづくり体験では、森の香りを楽しむことができました。3日目のポートアドベンチャーでは、ポートをこいだり湖にとびこんだりしました。利根川の上流はきれいにしないといけないと思ってごみを探しました。これからは生活のなかでもごみを探してみたいと思いました。</p>

**【6年生・伊藤 隆仁さん】**

これからの社会を持続可能でよりよいものにするために自分たちにできることをぼくは3つ考えました。1つ目は、家庭で出たごみはできるだけリサイクルをすることです。具体的には、家で飲み終わったペットボトルを近くのスーパーで回収機の中に入れて他のものに再利用されるようになります。2つ目は使わなくなった服やおもちゃをおすそ分けをすることです。ぼくがたまに着ている服もおすそ分けでもらったものです。自分が着られなくなった服も近所の人たちにあげようかなと思います。3つ目はエコバッグや水とうを常に持ち歩くことです。エコバッグを持っていれば、急な買い物でもレジぶくろを買わないですみます。水とうを使えばのどがかわいても、自はん機で飲み物を買わなくてすみます。これらを意識しながら生活していきたいと思います。

**【6年生・近江 陽向さん】**

ゴミ拾いをする。ゴミをあまり出さない。電気、ガスをなるべく使わない。オオハンゴンソウを抜く。

**【6年生・貝塚 彩菜さん】**

できるだけ水を出しすぎない。理由は水を使いすぎると川などに流れ着いてきたなくなってしまうから。

**【6年生・加藤 瑠晟さん】**

ぼくは今回のみなかみ探究ツアーを通して、これからの社会を持続可能でよりよいものにするために自分たちにできることを考えました。ぼくは、地域の活動などに積極的に参加したり、地域などの問題に対してその問題解決をするために取手市や色々な所の活動に参加すればよいと思います。例えば、みなかみ町だったら、オオハンゴンソウのく除活動などに参加すればよいと思います。ぼくも取手市の活動にできるだけ参加したいです。

**【6年生・金澤 大朗さん】**

自分のごみを減らす。周りの人への呼びかけ。リサイクル出来る物を使う。水を無だにしない。油を流さない。洗ざいを少なくする。食べ残しをしない。水をよく知る。水を出しすぎない。

**【5年生・北川 愛菜さん】**

私はこの探究ツアーに参加して、自分からできることをやっていきたいと思いました。ごみ拾い。川や海にごみを捨てない。外来種を見つけたら除去する。これからも水に感謝して大切に生活していきたいです！

**【6年生・小島 健豊さん】**

みなかみ町はすごく自然が豊かで、いい心地がよかった。そういう場所を守っていくために、森林を大切にしようと思った。ポイ捨てされているごみを拾う。キャンプをしたあとは、きれいに片付ける。森を守るために色々な仕事があることを知った。森を守るための仕事は大変だけど大切だと思う。

**【6年生・榊原 菜々穂さん】**

ごみを減らすこと。むやみにお湯をつかわない。電気をむだにつけない。服やくつは使えそうだったらおさがりとして着回したりする。木をむやみに切らない。飼っているペットを最後まで面どう見る。犬や猫の殺しよ分を減らす。

**【6年生・佐藤 駿さん】**

外来種を増やさないために、外来種を日本に入れないことを忘れないようにする。利根川などのごみを見つけたら拾うようにする。

**【6年生・佐野 皓太さん】**

ごみがたくさんおちていたから取手市でごみを出さない事とごみを見つけたら拾うようにして、川や海、湖などにごみを出さないことによって海の生物が生きやすくなったりする。あと温室効果ガスが出にくくなる。オオハンゴンソウなどの外来植物・生物などは数少ない絶滅つ危ぐ種や生態系、人間の生活に悪えいきょうをおよぼすことがあるので除去する。植林体験から、ドングリの木であるコナラを植えてクマなどの色々な生物などが集まり森を豊かにする力があることが分かったから、次そのようなことがあったら参加して木など植えたりして持続可能でよりよいものにしていきたいと思う。

**【5年生・渋谷 百芭さん】**

ポイ捨てはしないでごみが落ちていたらごみを拾ってごみを少なくすること。海にごみ、いらぬものを流さない。ごみが少なくなるように生活する。ポイ捨てなどごみを捨てたりすることによって、森など海がどんどんきたなくなっていて、木や海の魚などが育たなくなってしまうから、ごみを森や海など色々な所にゴミを捨ててはいけなとよく分かった。これからはごみが落ちていたらすぐに拾ってちゃんとごみ箱に捨てる。

**【5年生・下市 紗由奈さん】**

私は前から自然を大切にしたいという気持ちはありましたが、今回の探究ツアーでもっと大切にしようと思いました。探究ツアーでは、木はただ適当に植えるだけではいけないことを学びました。ただ私一人で木を植えることはあまりないので他に自然を守る活動で自分ができることを考えてみました。たとえば、ごみ拾いや外来植物を取り除くことをわたしがやるきっかけに友達に広めていきたいと思いました。ただ、外来植物も生きものなのでただ捨てるのではなく、見た目やツンとくるにおいなどさまざまなおいも楽しみながらあつかっていきたいと思います。

**【6年生・高橋 彩葉さん】**

「自然の豊かさにふれる」「どんなかん境にどんな生きものが暮らしているのか興味関心を持つ」「かん境に配りよした商品を選ぶ(FSC にんしょうマーク)」など。家でよく買う南アルプス天然水も FSC にんしょうマークでした。毎日の生活の中からも森林を守るためにできることは紙コップやコピー用紙などの使用量を減らす。再生紙を積極的にこう入したり利用したりすることができます。

**【6年生・武田 琉音さん】**

自分たちにできることは外のごみ拾いや外来植物を見かけたら除去(雑草取り)をする、ポイ捨てをしない、ポイ捨てをしている人にはだめだと伝える、学校の放送でポイ捨てやきれいな植物は取らないことや外来植物があれば取って捨ててほしいと校内で放送する。みなかみ町の話聞いて、取手市でも「節水」をすることが大事だと思いました。自分も水も出しっぱなしにしていることもあるので、手を洗うときうがいをするときお風呂に入るときには一回一回止めることにしようと思います。今回の二はく三日の夏休み探究ツアーin みなかみに参加させてもらいありがとうございます。来年は弟が参加したいと言っていたのでよろしく願います。ありがとうございました！！

**【5年生・照井 詩織さん】**

今回の探究ツアーを通して、私は自分たちに出来ることはたくさんあることに気づきました。例えば、オオハンゴンソウを除去することで、大事な植物の大切さに気づき、ほかの特定外来植物の除去にも取り組みたいと思いました。また、他に自分のまちでもごみ拾いをするといったことやこのような体験に積極的に取り組んでいくなどといったことができると思います。さらに、人にたくさんこの経験を伝えることも出来ることだと思います。自然を全く気にしていない人もよくいるけれど、そんな人にも自然の大切さ、身近さを伝えていきたいなと思います。私も、いつもビニールぶくろを持ち歩いてごみ拾いをしていきたいなと思います。これからかん境問題はどんどん増えていくと思いますが、なるべく増やさないようにさらにそう考える人が増えるようにと考えています。考えているだけでは、何も始まりませんが、ほんの少しの行動でもみんなで作っていったらなと思います。私たちの暮らしを自然は支えてくれています。それに、大切な資源です。だからこそ、人間も支えてくれている自然に感謝し、守っていかなくてはならないのだと思います。だから私は自然に感謝し、精一ぱい自分のできることをし、少しでもそんな人を増やしたいと思います。

**【5年生・戸澤 香純さん】**

散歩する時などにぶくろを持ち歩き、道ばたにごみが落ちていたら拾ったり資源をリサイクルに出したり、ごみを減らすようにする。また家族や友達などにどういうふうにしたら自然をもどせるかを話したり、愛好作業等自治会や学校、地域で行っている行事に参加できるようにしたいです。

**【5年生・江口 和希さん】**

水を大切に使う。取手市が使っている水は、みなかみ町の山から流れてきている。山が管理されて大切にされていないと利根川の水は守られていけない。みんなにもやってもらう方法！放送する、手紙、新聞で知らせる。

**【5年生・平野 結佳さん】**

川がよごれないようにするために、ビニールぶくろなどのすぐに飛んでしまうものはかばんの中に入れてたりして飛ばないようにする。今かかっている現状や課題、それに対する解決方法をみんなに広める。水を大切に使う。

**【5年生・福田 日向子さん】**

今回みなかみツアーで一番大切だと思ったことは、木を植えて終わりではなく、そのまま守り続けることです。なぜそう思ったのかというと、みなかみツアーで木が山に無いと、山の生態系がくずれてしまうと聞いたからです。みなかみの人たちは、それを防ぐために植林をしていました。植林をして終わりではなく、木にあみをして、山に住む動物に木の芽が食べられないようにしていました。取手市でも同じような事を、山ではなく、はげ地にみんなで植林すれば木が増えるのではないかと思いました。そのためには、今回ツアーであった事や学んだ事を家族や友達に伝えることが大切だと思います。子どものうちだけではなく、大人になってからも次の世代に伝えることも大切だと思います。わたしの家には、木がたくさん植えてあります。夏には日がさえぎられてすずしくなり、冬には葉が落ち、日がさしこんであたかくなります。その分、冷だんぼうの電気代が減ります。そのようなメリットが庭の木にはあります。それに、木を見ているととても落ち着きます。ですが、それに気づかずに、便利さを優先してしまい、木を植える人がとても少ないそうです。木があると落ち着くということを人に伝える前に、まず自分が木があるとどのようなメリットがあるのか、どんな気持ちになれるのかということをお大切に覚えておくことが、自分にできて、これからの社会に役立つことかなと思いました。

**【5年生・松尾 碧泉さん】**

「陸の豊かさを守ろう」ではポイ捨てをしない、1個でもいいからごみをひろう、植林体験に参加するなどいろいろなことを少しずつやりたいです。「気候変動に具体的な対策を」ではできるだけ食べ残しをへらしたり、エアコンの温度を27度ではなく28度にしたりしていきたいです。その他自分でもできること、省エネ・節水・エコ製品を使う。できるだけお湯ではなく水を使う。

**【6年生・松永 悠希さん】**

利根川をさらにきたなくしないために自分もポイ捨てなどしないようにすると利根川はさらにきたなくはならないと思いました。さらにごみを見つけたらすぐ拾えるようにいつもゴミぶくろを持ち歩くことがいいと思いました。

**【6年生・松本 和葉さん】**

今回のツアーを通して、やはり自分の知識や理解がまだ足りないと感じました。もちろん環境問題に対して解決するために行動することは必要です。しかし、内容を理解していないとそれだけやるのが分からず行動にうつせない人が増えていくと思います。だから私はまずは今の現状について考えや理解を深めることが重要なのではないかと感じました。理解や考えを持っておけば、「次はこういうことをやるべきだ」と自分から行動する人が増えて、かん境問題やそのほかの問題を考える人が増えるのではないのでしょうか。今、環境問題は深刻化しているのにも関わらず、そのことについてなんとなくしか知らない人がきっと多いです。だから、これからの社会を持続可能でよりよいものにするには、このような問題に目を向け、みんなが「このようなことが起きている」と理解する必要があると思います。

**【6年生・箕輪 晴さん】**

自然を守るために、むだな紙の使用を減らして紙の使用量を減らす。森林を守るために開かれたイベントなどに参加する。生き物を守るために、森や川に出かけたときに、出たごみは必ず全て持ち帰る。野生の生き物にえさをあたえたり、さわったりしない。持続可能な社会にするために、ボランティアに参加する。むだなエネルギーを消費しない。エコバッグを持ち歩く。男女で差別しない。これからの社会を持続可能でよりよいものにするためには、自然の豊かさ、生き物の大切さなど、世界の全ての人一人ひとりが地球のことを考えて生活を送らなければいけない。

**【5年生・三宅 英佑さん】**

ごみを分別したり植林をしたりして未来のためにがんばる。

**【5年生・村山 春瑠さん】**

自然や SDGs に関して自分なりの目標を立てていくこと。ごみ捨て場以外でごみを捨てない。木がなくなった分植林を計画的に植えていく。一人ひとりが SDGs の目標を達成できるように声かけをし、自分ですすんで活動する。

**【6年生・吉尾 ちよさん】**

私はごみを見つけられなかった。遊びに夢中すぎてまわりが見えていなかったのもあったので、自分で目につくごみはひろっていこうと思いました。父とかにさそわれたごみ拾いや外来種の草ぬきとかをそっ先してやっていきたいなと思いました。

**【6年生・小宮 颯太さん】**

家庭からでるごみを減らす。必要な物だけを買う。